

3年	整数のわり算	2位数÷1位数=1位数(余りなし)
【ねらい】既習の考え方をを使って等分除の意味を理解する。		

課題

あめ玉が12こあります。3人で同じ数ずつ分けると、1人分は何こになりますか。

みんなでなかよく分けましょう。問題文にある「同じ数ずつ」「分ける」は大事な言葉です。

分かっていることは、12個のあめ玉があること3人で「同じ数ずつ分ける」ことです。そして、求めることは、1人分が何個になるかです。

1人分の数を求める計算の仕方を考えよう。

既習事項の想起

①絵を描いて分けてみようかな。

②ひき算を使って何回ひけるかやってみよう。

③たし算を使って考えよう。

④かけ算をして考えられるかな。

自力解決

①あめ玉を1個ずつ分ける考え

○○○○○○
○○○○○○

○○○○
○○○○
○○○○

1人分は4こ
答え 4こ

②ひき算を使った考え

12 - 3 = 9
9 - 3 = 6
6 - 3 = 3
3 - 3 = 0

4回引けるので
1人分は4こ

答え 4こ

③たし算を使った考え

3
3 + 3 = 6
3 + 3 + 3 = 9
3 + 3 + 3 + 3 = 12

4回たすと12になるので1人分は4こ

答え 4こ

④かけ算を使った考え

かけ算の言葉の式
1つ分の数 × いくつ分 = 全部の数
1人分を□にすると
□ × 3 = 12
3の段のかけ算
4 × 3 = 12なので
1人分は4こ

答え 4こ

指導上の留意点

- 自分の考えをノートにまとめる際には、ノートを広く使わせ、すっきりとまとめさせる。自分の考えを小さく書かせないように指導する。
- 自力解決ができた子供には、説明の練習をさせる。その後、ペアや考えをまとめた子供同士で互いに説明し合わせる。この時間を使い代表児童に板書させておく。

1 自分の考えを説明し合う



① さっき先生がやった方法で、あめ玉を1個ずつお皿に動かしました。1人分が4個ということがはっきり分かります。



② 3人で分けるには1回で3個必要です。全部の数の12から、何回ひけるかをひき算を使って求めました。



③ 3人で分けるには1回で3個必要なのはひき算の考え方と同じです。ひき算の考え方とは逆に、たしていつて何回で12になるかを求めました。



④ かけ算の言葉の式を使って考えました。かけ算の言葉の式に当てはめて考えると、 $\square \times 3 = 12$ になります。2年生で勉強したこの考え方でも求めることができます。

2 それぞれの考えのよさを話し合う



①は、実際に動かしたので間違いがないよ。



②は、何回ひいたかで、何人に分けられたかがはっきり分かるね。



③は、ひき算と逆に、たしていつても答えは出せるということだね。



④かけ算の式でも、考えることができるね。

3 学習をまとめる。

同じ数ずつ分けて、1人分を求める計算の仕方にはいろいろな方法がありましたね。算数の言葉を使って、今日の学習をまとめましょう。



「動かしても、ひき算でも、たし算でも、そしてかけ算でも、同じ数ずつ分けて1人分を求めることができる。」です。

● 考えの発表は、分かりやすい考え方から始め、難しい考え方は最後にすることを基本とする。

● わり算の学習の導入だからこそ、既習事項のたし算やひき算、かけ算を使えば答えを求めることができる算数のよさや楽しや便利さを味わわせたい。

● 学習のまとめは、算数の言葉を使って子供たちでにまとめさせたい。その後、教師が指導修正して、本時の学習を価値付ける。

○ 適用問題に取り組む。(教科書や単元問題ライブラリー)